

まちづくり通信 第 112 号

TEL 85-3631
FAX 55-4806

新年あけましておめでとうございます。
令和5年も鳥栖北地区まちづくり推進協議会をよろしく願いいたします。

新成人の皆さま、おめでとうございます

鳥栖北地区から 153 名の方が「二十歳の式典」を迎えられます。

二十歳を迎えられた皆さま、並びにご家族の皆さま、誠におめでとうございます。

1月8日(日)、鳥栖市民文化会館にて二十歳の式典が開催されます。

榎 孝文さんが表彰されました

永年にわたり交通安全指導員として従事された功績を、市長より表彰されました。

いつも子ども達の安全を見守っていただき、ありがとうございます。これからもよろしく願います。



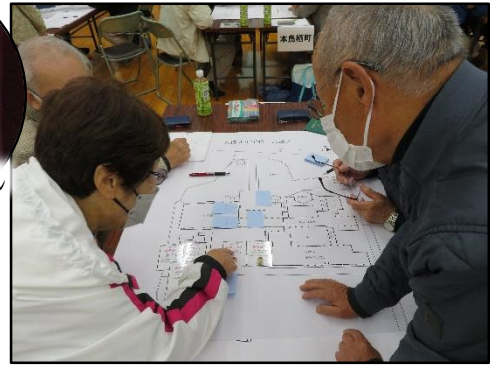
まち協・社協共催

防災講習会

11月25日、一般社団法人 地域安全協会 代表理事の山本一さんにお越しいただき、災害に備える講話をしていただきました。後半は各町区に分かれたグループワークで、北小を避難所と仮定したシミュレーションを行いました。災害が起きた時に何をすべきか、避難するまで、また避難してからも人が死なないための避難所運営を学びました。



山本 一さん



スポーツ協会

ソフトボール大会

11月27日、北小グラウンドにて快晴のもとソフトボール大会が開催されました。準備から試合まで、参加者の方の協力を得てスムーズに進み、心地よい汗をかきながら和気あいあいと楽しみました。熱戦を制し優勝したのは、本鳥栖町チームでした。参加者の皆さん、お疲れ様でした。



青少年育成会

ミニ門松作り

12月11日、センターの集会場において、小学生を対象としたミニ門松作りを開催しました。講師の楠本さんが準備して下さった竹や松、ヤブコウジなどを使って、かわいらしい対のミニ門松を作りました。思い思いの門松が完成し、今年も良い一年を迎えられることだと思います。また楠本さんには、センターの玄関にも立派な門松を作っていただき、ご来館の皆さまや年神様を晴れやかに迎えました。



楠本 清さん



長崎街道

第8歩

・轟木町・

爽やか歴史さんぽ



長崎街道とは江戸時代に長崎と小倉を結んだもので、別名シュガーロードとも呼ばれ、宿場町などがあった場所です。鳥栖地域の田代・轟木宿にもオランダ使節のカピタン（商館長）行列や、任務のため往来する長崎奉行・幕府役人やあるいは商人などが盛んに往来・宿泊していました。



日子神社

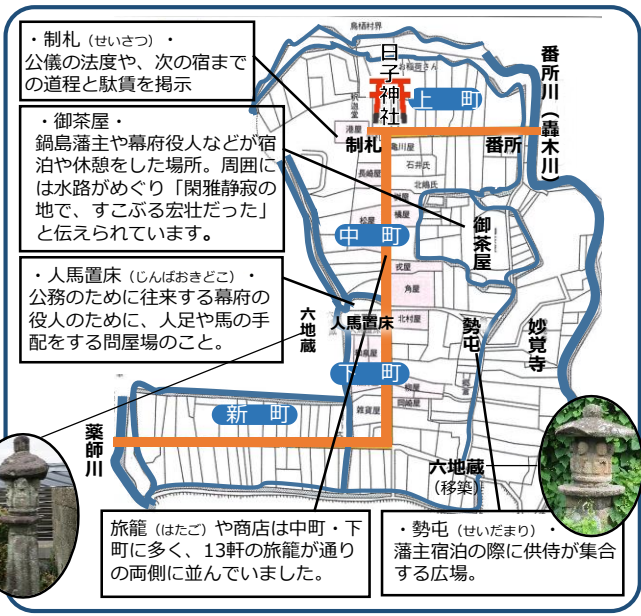
鍋島家の信仰が厚かった日子神社。境内に「叶」の字をかたどった池、そこに架かった太鼓橋を渡れば元禄13年（1700）の銘がある肥前鳥居、拝殿前には元禄7年銘の石灯籠もあります。伊能忠敬は、文化9年（1812）制札※左角から田代に向かって長崎街道を測量しました。文政9年（1826）オランダ商館長に随行したシーボルトは、この付近は肥前・筑前及び筑後の三国が接する重要な地点として、太陽高度を測定し、緯度と佐賀・柳川的位置から経度を算定して轟木の位置を計測しています。



※制札…下図参照

轟木町（宿）のはじまり

轟木町の起源を考えるにあたってまず思いつくのが、蒙古襲来（文永・弘安の役：13世紀後半～末）に出陣した武将の中に「土々呂木氏」の名があり、ここに館があったと考えられます。次には下町の西と南に1基の石塔に6面彫りの「六地藏」が祀られていることです。この地域では六地藏は16世紀代に多く建立されています。このことから、下町が中世にまずつくられ、ここを核にして江戸時代の轟木宿が形成されたと考えられます。さらに、その考えを補強するのが、日子神社の境内社として「祇園神社」があることです。田代・瓜生野町でも祇園神社の勧請は江戸時代以前でした。以上のことから、まず土々呂木氏の館があり、その周辺に集落ができ、町場が形成されていたものと考えられます。



番所川・番所跡・薬師川

轟木川は通称「番所川」と呼ばれ、江戸時代は対馬藩田代領と鍋島藩との藩境になっていました。江戸時代には飛び石伝いに渡り、渡るとすぐに番所がありました。轟木宿は肥前鍋島藩の東北端にあたるために番所を設け、侍1人・足軽9人が詰めて、出入りする人間と物を厳しくチェックしていました。薬師川は轟木宿の西端にあたり、そばには薬師堂があったためこの名が付きましました。現在は、いつ頃建てられたか不明な観音堂だけが見られます。江戸時代、川幅は6間（約11m）あり、橋がなく飛び石に渡っていました。

